

播州地方の社寺林の植生(2)

杉 田 隆 三

14. 榎蔵神社 社叢

飾磨郡夢前町宮置

この林は神社の背山—通称城山と呼ばれる海拔 439.5 mの山の山足から中腹(高度約 300m)にかけて存在している。みごとなシイの残存林でかなりの面積をもち、当地方では竜野市の鶏籠山のシイ林に次ぐものであろう。

植生は全体としてはコジイ—カナメモチ群集に属すと思われるが山足部より中腹へと組成の変化がみられる。山足腹では高木層に樹高が20mを越すコジイにアラカシ、ヒノキが混在し、亜高木層にはコジイ、ヤブツバキ、カナメモチ、アラカシなどがある。低木層にはシイ・アラカシの幼樹、シロバナウンゼンツツジが優占し、草本層にはベニシダが優占している。



シイ林の全景

これが中腹部に行くにつれて高木層のコジイの樹高が低くなり(約10m)、アラカシにかわってウラジログシがあらわれ、亜高木層ではヤブツバキ、アラカシにかわってタカノツメ、クロバイ、ソヨゴがみられる。低木層ではシロバナウンゼンツツジよりもコバノミツバツツジが多くなり、ネジキ、モッコクがみられ、草本層ではベニシダにかわりコシダ、ウラジロが優占している。これは上部に行くに従い岩盤が露し、土壌層も薄くなっているのが原因であろう。なお、その組成からみると、中腹部の植生は、コジイ—カナメモチ群集のなかのモッコク変群集(中西・矢野・杉田1973)にあたるものである。

次に山足部と中腹部の組成の一例を示す。

山足部の組成(高度 100m付近)

高木層 コジイ(3) アラカシ(2)

亜高木層 コジイ(3) アラカシ、ヤブツバキ(2)

カナメモチ、モチノキ、ヤマハゼ、アカシデ
(1)

低木層 コジイ(3) アラカシ(2) ネズミモチ、ヒサカキ、ヤブツバキ、サカキ(1) ヤブムラサキ(+)

草本層 ベニシダ(2) マンリョウ、シシガシラ、ヤブツバキ、コジイ、テイカカズラ、マメツタ(1) アラカシ、サルトリイバラ、ノブドウ、ヒサカキ、ヘクソカズラ、ナツフジ(+)

中腹部の組成(高度 200m付近)

高木層 コジイ(5) ウラジログシ(2) クロバイ(1)

亜高木層 コジイ(3) ソヨゴ、タカノツメ(1)

低木層 コジイ(3) カナメモチ、コバノミツバツツジ、アラカシ(2) タカノツメ、ネジキ、モッコク、ウラジログシ、シラカシ、ヤブツバキ、クロバイ、サカキ、アセビ(1) モチツツジ、シャシャンボ、ヤマハゼ、ナワシログミ(+)

草本層 コシダ(4) ヤブコウジ、ノキシノブ、マメツタ(1) ムギラン、ヒサカキ、コジイ、ヤブツバキ、コバノガマズミ、ネジキ、タカノツメ、サルトリイバラ、ベニシダ、ソヨゴ、テイカカズラ(+)

15. 二百余社大明神 社叢(海拔 170m)

飾磨郡夢前町護持

中腹から山足にかけてかなりの面積をもっている。高木層、亜高木層、低木層ともにシイが優占し、草本層にはテイカカズラ、ベニシダが優占している。その組成からスダジイ—ヤブコウジ群集に属すものと思われる。

なお、神社裏手にはイチイガシ、イズセンリョウ、コショウノキ、クロガネモチがみられた。

次に組成の一例を示す。

高木層 スダジイ(4) コジイ、アラカシ、ヒノキ(1)

亜高木層 コジイ、サカキ(2) シキミ、ネジキ(1) アラカシ、ヤブツバキ、カナメモチ(+)

低木層 コジイ(2) カナメモチ、ヒサカキ、サカキ、アラカシ、アセビ、シキミ、カクミノスノキ、シャシャンボ(1) ヤブツバキ、コバノ

ミツバツツジ、ヤマウルシ、ネズミモチ、コンテリギ、コシアブラ、ヒイラギ、ヒノキ、リンボク、イチイガシ、モチツツジ、ナワシログミ、ネジキ、コバノトネリコ、シロバナウンゼンツツジ、コバノガマズミ(+)

草本層 テイカカズラ(3) ベニシダ(2) シュンラン、シシガシラ、ヤブコウジ、ナガバシヤノヒゲ(1) ヤマウルシ、サルトリイバラ、イチヤクソウ、ソヨゴ、マンリョウ、コバノガマズミ、イヌツゲ、ウラジロ、ナツツタ、コシダ、アオキ、ホソバトウゲシバ、ヤブラン、ビナンカズラ、シュズネノキ、キッコウハグマ(+)



シイ林の内部

16. 水尾山補陀落寺 寺裏

飾磨郡夢前町文殿(海拔 220m)

この林は山の中腹にある。調査した時(昭和48年)には登り口付近からシイの大きな木が点々とあり、右手のアカマツ林の下にはシロバナウンゼンツツジを主とするツツジ類の大群落があったが、現在では菅生ダム工事に伴う道路のつけかえにより無惨にも破壊され見るかげもない。誠に残念なことである。

立派な寺裏は奥の院周辺にあり、シイの残存林である。スダジイも点在するが、その組成からみてコジイ・カナメモチ群集に属するものと思われる。

なお、庫裡の近くにはリンボクの大木(胸高周囲約2

m)があり、奥の院周辺のツクバネガシにカラヤン、ムギラン、シノブの着生がみられた。

奥の院左手の組成の一例を次に示す。

高木層 コジイ(5) ツクバネガシ、アラカシ(1)
亜高木層 アラカシ(1) コジイ、ネジキ、リョウブ、ソヨゴ(+)

低木層 ヤブツバキ、カナメモチ、サカキ(2) コジイ、ヒサカキ、シキミ、ツクバネガシ、シロバナウンゼンツツジ、ソヨゴ(1) リョウブ、ヒノキ、モチツツジ、カクミノスノキ、アオハダ、シャシャンボ(+)

草本層 シュンラン、コバノガマズミ、ヤマウルシ、ヤブコウジ、アセビ、シシガシラ、サルトリイバラ、ツルリンドウ、ノキシノブ、マメツダ、ヤブラン、マンリョウ、ベニシダ(+) イチヤクソウ、トウゲシバ(r)

17. 八幡神社 社裏

神崎郡福崎町西治(海拔90m)

この社裏については兵庫生物 Vol. 6 No. 4 に建部恵潤氏の記事があるので詳細については略す。参道右手にシイの残存林があるが、右手や裏手もよい林で、コジイ、スダジイ、ツクバネガシ、クロバイがスギ、ヒノキの中に混在している。シイ林はその組成よりコジイ・カナメモチ群集に属するものと思われる。

参道左手の組成を次に示す。

高木層 コジイ(4) ヒノキ(3)

亜高木層 コジイ(3) カナメモチ、アラカシ(2) ヒサカキ、アセビ(1) スギ(+)

低木層 コジイ(3) サカキ、アラカシ、ヒサカキ、ヤブツバキ(2) カクミノスノキ、アセビ(1) シャシャンボ、サルトリイバラ、モチツツジ、コバノガマズミ、ソヨゴ、タカノツメ(+)

草本層 ヤブコウジ、ビナンカズラ、ヤブツバキ(1) ナツフジ、ヒトツバ、ヒサカキ、サルトリイバラ(+) ササクサ(r)

18. 大蔵神社 社裏

神崎郡福崎町福田(海拔90m)

この社裏についても兵庫生物 Vol. 6, No. 4 に建部氏の記事があるので詳細は略す。イチイガシが境内全体では約20本あり当地方の社裏では特異な存在である。林床には相当人の影響がおよんでいるが組成的にはイチイガシ群集(鈴木時夫 1960)に属するものと思われる。

境内左手での組成を次に示す。

高木層 ヒノキ(4) イチイガシ(3) モミ(1)

亜高木層 サカキ(3) アラカシ(2) ヒノキ、ナミノキ(1)

低木層 ヤブツバキ(3) アラカシ、サカキ(2)
ヒサカキ、コバノガマズミ、ヤマウルシ、タ
ノキ(1) ムクノキ(+)

草本層 ベニシダ(3) イノコズチ、ヤブコウジ
(2) チヂミザサ、テイカカズラ、ビナンカ
ズラ、ヤブツバキ(1) フユツタ、ネザサ、
ヤブラン、ササクサ、ミズヒキ、サルトリイバ
ラ、ナンテン、ヘクソカズラ(+)

19. 八幡神社 社叢

神崎郡神崎町奥猪篠(海拔 340m)

参道、社殿の周辺はスギ、ヒノキの大木(最大のも
の、胸高周囲 456m)でおおわれているが、右手の方に
ヒノキが優占している、シラカシの大木(胸高周囲 2
m)を交えた自然林の名残がある。

この林はシュロを欠くがシラカシ、チャノキ、ナンテ
ンとシラカシ群集(宮脇・大場1965)の標徴種が出現す
るので潜在的にはシラカシ群集に属するものと思われる。

次に組成の一例を示す。

高木層 ヒノキ(4) スギ、シラカシ(2) カ
ゴノキ(1)

亜高木層 ヤブツバキ、ユズリハ(2) カヤ、ヒサカ
キ、クマノミズキ(1)

低木層 ユズリハ、アオキ(3) クロモジ(2)
チャノキ、ナンテン、ネズミモチ、シラカシ、
ヤブツバキ、ヤダケ、コクサギ、ビンナンカズ
ラ、シロダモ(1) ヌスビトハギ、ウド、ム
ラサキシキブ、ケンボナシ、シラキ、ウラジロ
ガシ、ケヤキ、サカキ、エゴノキ、イヌガヤ
(+)

草本層 テイカカズラ、シャガ(3) ミズヒキ、フ
ユイチゴ、イラクサ(2) イノコズチ、イワ
ガネソウ、エビネ、ハエドクソウ、ミヤマカタ
バミ、ベニシダ、ジュウモンジシダ(1) ヤ
ブラン、ドクダミ、ホウチャクソウ、ヘクソカ
ズラ、ヤブコウジ、ノブキ、テンナンショウ、
ミツバ、イノデ(+)

20. 普光寺 寺叢

加西市河内(海拔 180m)

普光寺は加西市の野外活動センターになっているが、
背山に立派なシイの残存林がある。高木層はもちろんの
こと、低木層にもコジイが優占し、林床にもシイの稚樹
が多い。その組成からみてコジイ-カナメモチ群集に属
するものである。

組成の一例を次に示す。

高木層 コジイ(5) サカキ(1)

亜高木層 コジイ(2) ヤブツバキ、アセビ、カナ
メモチ(1) アラカシ、コバノミツバツツジ、ネ

ジキ、コシアブラ(+)

低木層 コジイ(3) サカキ(2) カナメモチ、
ヤブツバキ、ヒサカキ、ジュズネノキ(1)
リンボク、シキミ、シャシヤンボ、ヤダケ、ア
オキ、ナナミノキ、ヤブニッケイ、シロダモ
(+)

草本層 コジイ、ベニシダ、テイカカズラ、ネザサ
(1) ササクサ、ナガバジャノヒゲ、アラカ
シ、シシガシラ、ヒサカキ、コシダ、カナメモ
チ、ヤブコウジ、ナツフジ、チヂミザサ(+)

21. 法華山一乗寺 寺叢

加西市坂本(海拔 100m)

一乗寺は西国二十六番の札所で西暦 650年法道仙人が
創立したものといわれている。お寺の案内板には原始林
面積39.3haと書いてある。建物の周辺は栽植されたスギ
の大木でおおわれ、さらにその周辺部にコジイ、モミの
優占する部分があるが全体としてはコジイ-カナメモチ
群集に属するものと思われる。

次に代表的な組織の2例を示す。

高木層 コジイ、アラカシ(3) スダジイ(1)

亜高木層 アラカシ、コジイ(2) ヒノキ、ヤブツバ
キ(1) ウラジロノキ(+)

低木層 コジイ、ヤブツバキ(3) アラカシ、コッ
クバネウツギ、ヒサカキ(2) モチツツジ、
コバノミツバツツジ、シャシヤンボ、カナメモ
チ、アセビ、サカキ(1) シロバナウンゼン
ツツジ、ミヤマガマズミ、カクレミノ、シキ
ミ、ソヨゴ、ナナミノキ、アカシデ、ネズミモ
チ、カマツカ、ガンビ

草本層 ベニシダ(2) ヤブコウジ、コシダ、テイ
カカズラ(1) ヒサカキ、マンリョウ、ヤブ
ラン、ナツフジ、ハシゴシダ、シシガシラ、ト
ウゲシバ、チヂミザサ、ビナンカズラ、ササク
サ、サルトリイバラ(+)

高木層 モミ(4) アカシデ(2) ヒノキ、コジ
イ(1)

亜高木層 アラカシ(2) コジイ、モミ、ヒメユズリ
ハ、ネムノキ、ネズミモチ(1)

低木層 ヤブツバキ(3) カナメモチ、ヒサカキ、
サカキ、アラカシ(2) アオキ、シャシヤン
ボ、クロバイ、コジイ、イヌツゲ(1) リン
ボク、ツクバネウツギ、ヤブムラサキ、シキ
ミ、カクレミノ、アセビ、タカノツメ、カクミ
ノスノキ、コバノガマズミ、アカシデ(+)

草本層 テイカカズラ(3) オカメザサ(2) ナ
ガバジャノヒゲ、ヤブラン、トウゲシバ、ベニ
シダ、チヂミザサ、キッコウハグマ、ヤブコウ

ジ、フユイチゴ(1) ナツフジ、ヤマウルシ、ササクサ、ビナンカズラ、ヒサカキ、リンボク、ナナミノキ、サルトリイバラ(+)

22. 光明寺 寺観

加東郡滝野町滝野(海拔 220m)

加古川線滝野駅の西方の小高い山の上にあり、すぐそれとわかるシイの残存林である。相当な面積を占めているが奥院周辺に特に大きなものがみられ高木層、亜高木層、低木層ともにシイが優占した極相林である。その組成からスダジイ-ヤブコウジ群集に属するものと思われる。

次に組織の一例を示す。

- 高木層 スダジイ(3)
亜高木層 スダジイ(5) ヤブツバキ、アラカシ(2)
タカノツメ、カナメモチ、アカシデ、ヤブニッケイ(1) ヒノキ、ネムノキ、カクレミノ(+)
低木層 スダジイ、ネズミモチ、カナメモチ、ヒサカキ(2) アセビ、アラカシ、アオキ、ヤブムラサキ、ソヨゴ、サカキ、カクレミノ、ヤブニッケイ、コンテリギ、ヤブツバキ(1) イヌツゲ、ヤマハゼ、クロガネモチ、タラヨウ(+)
草本層 ネザサ(2) ベニシダ、アラカシ、ヤブニッケイ、テイカカズラ、ビナンカズラ、アリドオシ(1) アオキ、シシガシラ、カナメモチ(+)
サルトリイバラ、ナガバジャノヒゲ、シハイスマレ、シュンラン(r)

23. 熊野神社 社観

多可郡加美町市原(海拔 200m)

山足部の平地にある。境内には胸高周囲 372cmのコジイの大木やアカガシの大木もあるが全体としてはヒノキ、シラカシが優占している。シラカシ群集に属するものと思われる。

次に組織の一例を示す。

- 高木層 ヒノキ、シラカシ(3) スギ、ソヨゴ、コジイ(1) アオハダ(+)
亜高木層 ヤブツバキ、ユズリハ(2) アセビ、ヤブニッケイ、ホノノキ(1)
低木層 ヒサカキ(3) ヤブツバキ(2) シラカシ、コシアブラ、アラカシ、ソヨゴ、アセビ、サカキ、コジイ(1) リンボク、ヤマウルシ、クロモジ、リョウブ、ヒノキ、ウリカエデ、タラヨウ、シキミ、ユズリハ、チャノキ(+)
草本層 ベニシダ、ヤブコウジ、テイカカズラ(1) ツルアリドオシ、ビナンカズラ、マンリョウ、イヌツゲ、シラカシ、コジイ、サルトリイバラ、ナカバジャノヒゲ、ネザサ、ササクサ、ヘ

クソカズラ、スギ(+)

24. 五霊神社 社観

多可郡加美町岩座神(海拔 380m)

山足部にあり、あまり広い面積ではないがスギ(最大のもの、胸高周囲 364cm) ツクバネガシ(最大のもの、胸高周囲 260cm) ホソバタブ(最大のもの、胸高周囲 454cm) の大木がある。従来瀬戸内海沿岸部にはタブ林は成立しないとされているが、このような内陸部にタブの大木が発見されたことは注目すべきことであり、是非県の保護指定地にすべきである。なお、ホソバタブであることは神戸大学の中西教授が実地に行かれて同定されたものである。

次に組織の一例を示す。

- 高木層 ホソバタブ(5) スギ(3) ヒノキ(2)
カゴノキ、シラカシ、ツクバネガシ(1)
亜高木層 なし
低木層 アオキ(3) ヤブツバキ、コンテリギ、ネズミモチ(1) ナンテン、シュロ、コバンノキ、タラノキ、イヌガヤ、チャノキ、クロモジ、ヒノキ、オカメザサ、リンボク(+)
草本層 フユイチゴ(2) ベニシダ、ミズヒキ、ドクダミ、キッコウハグマ、ヤブコウジ、ミヤマカタバミ(1) ヘクソカズラ、ハエドクソウ、フユツタ、マメツタ、ナツフジ、シュンラン、クマワラビ、コカンスゲ、ナルコユリ、ナガバジャノヒゲ、イタドリ(+)

参考文献

1. 鈴木時夫(1966):日本の自然林の植物社会学体系の概観, 森林立地 Vol. VIII, No. 1
2. 宮脇 昭他(1971):逗子市の植生, 逗子教育委員会
3. 西宮市自然保護利用基礎調査団(1972):西宮市の自然保護および利用に関する基礎調査研究報告書
4. 建部恵潤(1972~1974):兵庫県粟粟郡と近接地の植物文化財(1~3), 兵庫生物 Vol. 6, No.3~5
5. 佐々木好之(1973):植物社会学, 生態学講座(4), 共立出版
6. 中西 哲・矢野悟道・杉田隆三(1973):兵庫県瀬戸内内陸部の自然林について, 第20回日本生態学会大会講演要旨 A18
7. 亀山章也(1973):大阪平野の残存自然植生, 大阪府南部公園事務所
8. 兵庫県生活部自然課(1974):兵庫県の自然の現状